弾き手のための 現場レベルに使える ずぼらな自動伴奏を 構築する手法

橋田光代 福知山公立大学 情報学部

hashida-mitsuyo@fukuchiyama.ac.jp

自動伴奏システム

人間の演奏に合わせて、伴奏パートをシステムが出力→リアルタイムに合奏やセッションを!

• 入力:人間の生演奏 [MIDI or 音響]

1. マッチング

楽譜追跡(既存曲の場合) または リズムやコード推定(即興の場合)

2. スケジューリング 伴奏パートの発音時刻(テンポ)決定

3. 伴奏データ加工 伴奏パートの表情付け

• 出力:システム演奏 [MIDI(電子楽器)]

自動伴奏システム

人間の演奏に合わせて、伴奏パートをシステムが出力

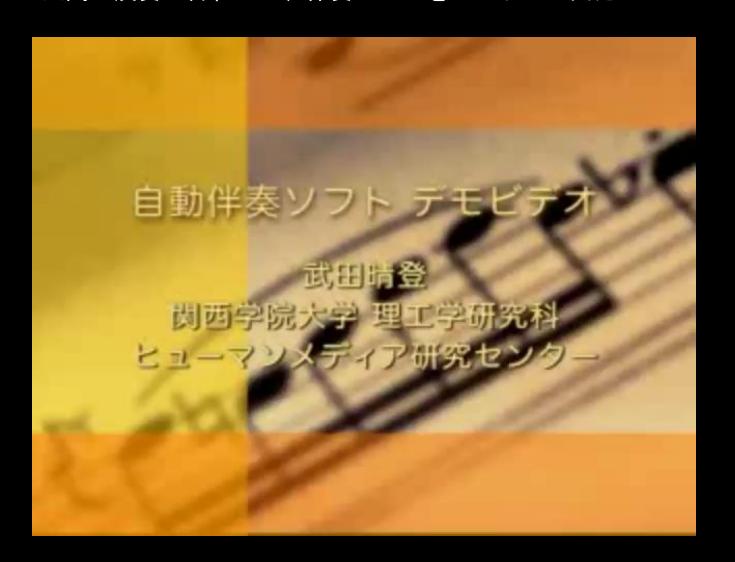
- 意図·自主性, 演奏意図
 - スケジューラの検討「堀内 1995~]
 - 名演奏のなぞり [奥平, 片寄 2003~]
- 応用
 - 追従型カラオケ [片寄 他 1993]
 - Family Ensemble [大島, 西本 2004~]
- 楽譜追跡の数理的高精度化
 - Orchestra In a Box (C. Raphael 2003~)
 - 武田他のシステム (2007~)

[Dannenberg 1984-]

- 頑健なマッチング アルゴリズム
- 実音響への対応(単旋律)
 - アルペジオや ビブラートに対応

自動伴奏システム

人間の演奏に合わせて、伴奏パートをシステムが出力



[武田 et al. 2007]

- 隠れマルコフモデル
- 鍵盤楽器 (複数声部) 対応
 - 同時複数発音ok
 - 弾き飛ばし、弾き直し ok
- 伴奏の"吹っ飛び"激減

実用ベースでの難点

※一般アプリの楽譜追跡力はやっと'80〜'90年代レベル (in tempoならまあまあ、ピアノ曲でも人間パートは単旋律のみ)

- Metronaut Sheet Music

- ユーザにDesk Top Music の基本知識と設備環境を強制
 - MIDI入出力が可能な電子楽器やPCアクセサリ (電子楽器を扱う限り、ある程度はやむなし…とはいえ。)
- 自分の演奏スキルを踏まえて柔軟に/好きなように弾かせてほしい
 - 「楽譜通り」とか「正しく」演奏するのが正義とは限らない
 - → 既存曲の簡易即興には対応しにくい
 - 人間パートと伴奏パートをどう分ける?
- 全曲分の音符情報(MIDIファイル)を用意せねば…
 - MIDIデータはコンピュータのためのもの。人間の視認演奏には向いていない
 - 入手不可なら作ればいい…のだが。浄書スキル持っててもメンドイです。

・・・・楽譜追跡に全曲分の音符情報は必要か?

経験則:必要以上に高性能を追求してるかも

割とテキトー、それでも破綻しない伴奏

- ①トリガー(合図出し)的役割
- ②副旋律的役割

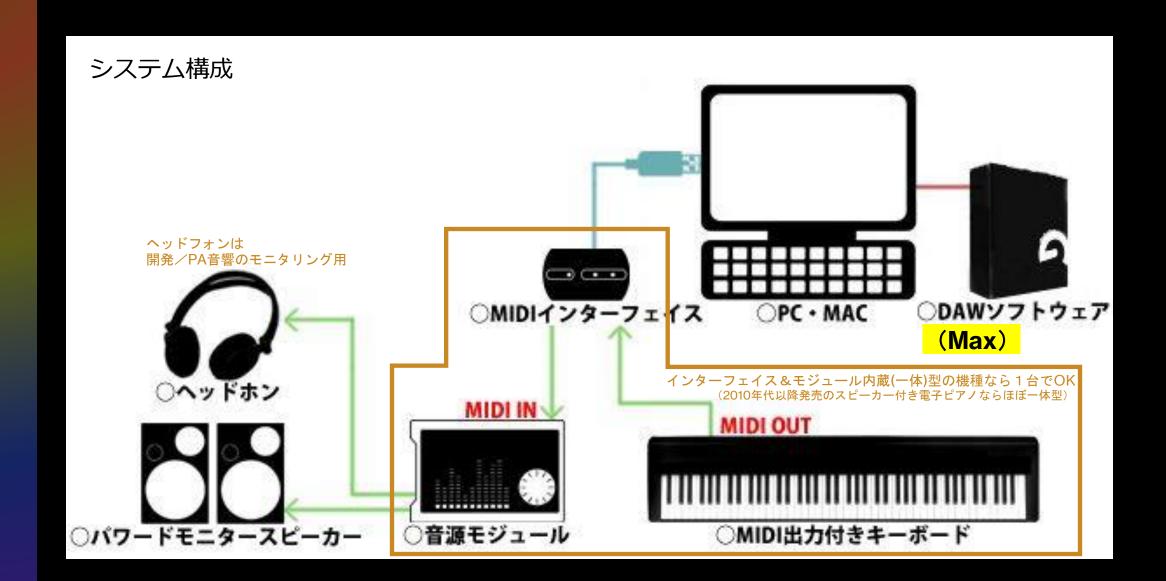
割とテキトー、それでも 破綻しない伴奏① トリガー (合図出し) 的役割

- 全体の進行に大きな変化がなければ何やってても実は良い
 - テンポ管理の側面はある。が、主導権は主奏者にあるはず
 - 和音・コード・リズムは突飛すぎなければ多少の自由がきく
- いくつかの肝心な音は外さないでね!

割とテキトー、それでも破綻しない伴奏② 副旋律的役割

- ハモリ、内声、オブリガード
- ときに独立した旋律部としての表現もやっていいはず
- 始まり and/or 終わりが肝心





想定

手持ちの楽譜 (歌+ピアノ伴奏)



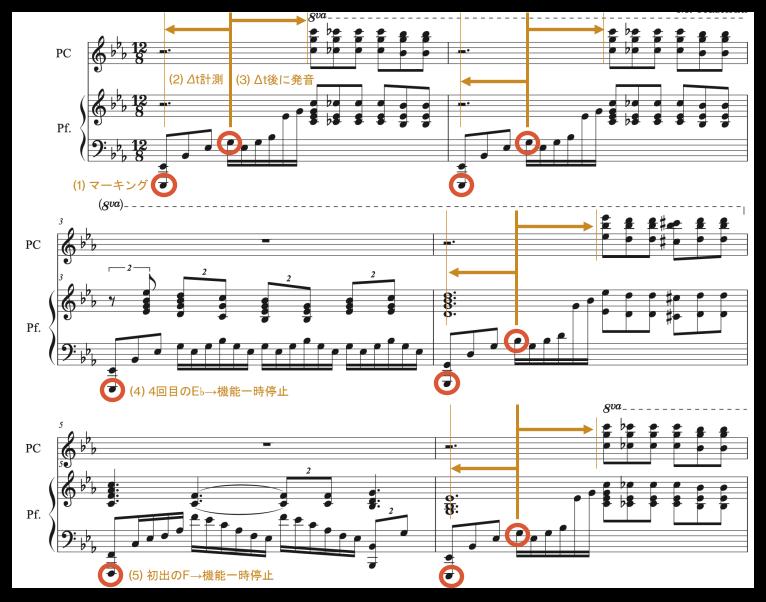
自分が弾く ピアノ独奏+システムパート



- 1. 手持ち楽譜 → 目指す楽器編成への編曲
 - 今回は [歌+ピアノ伴奏] → [ピアノ連弾]
 - 楽譜もない・・・耳コピ
- 2. 編曲
 - システムに任せるパート・音符列を決める
 - 自分が弾くパートを「書く」かは自分次第(省略も可)



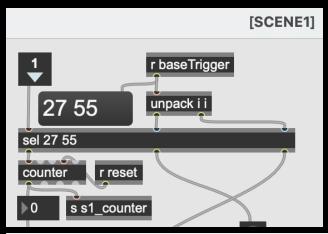
- **※システムに組み込んでいる** 音符情報はPCパートのみ
- ※PC送信→ピアノ受信には 0.5秒の遅延がある (ピアノの仕様につき絶対的制約)

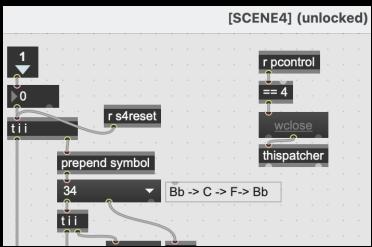


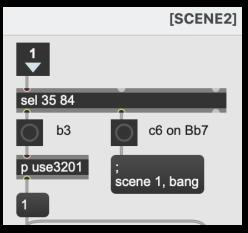
- ※システムに組み込んでいる音符情報はPCパートの音符列のみ休符は考慮しない→小節・拍の概念不要
- ※PC送信→ピアノ受信には 0.5秒の遅延がある (使用ピアノの仕様につき 絶対的制約)
- ※奏者(Pf.)は、 赤丸の鍵盤だけは確実に弾く。 それ以外はこの際どうでもよい

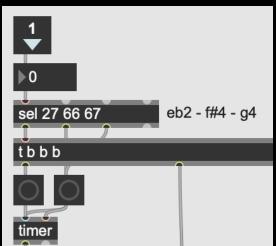


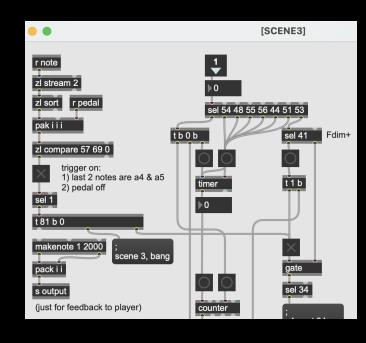
2分半のオリジナル編曲版 トリガーは5パターンのみ(入力音高は変数にしてバリエーションに対応)









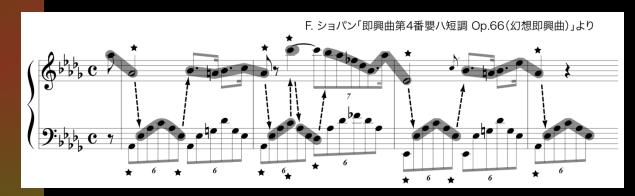


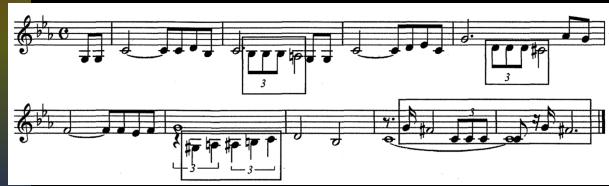
割とテキトー、それでも破綻しない伴奏

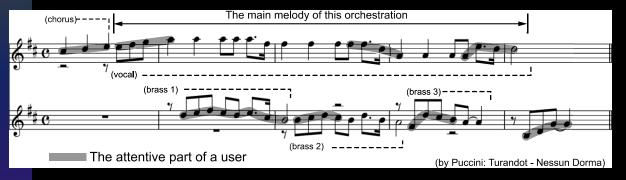
- ①トリガー(合図出し)的役割
- ②副旋律的役割

→アテンションパート & 同期点の設定 [橋田 2005-]

アテンションパート





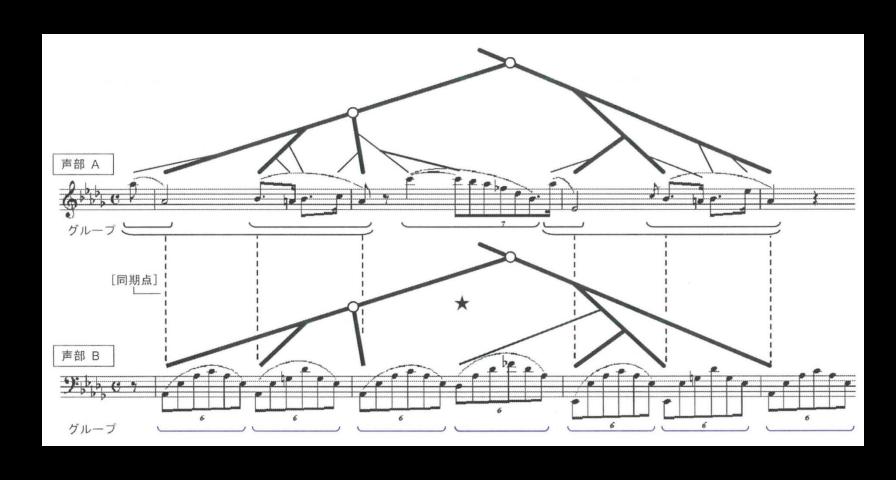


[橋田 2005-]

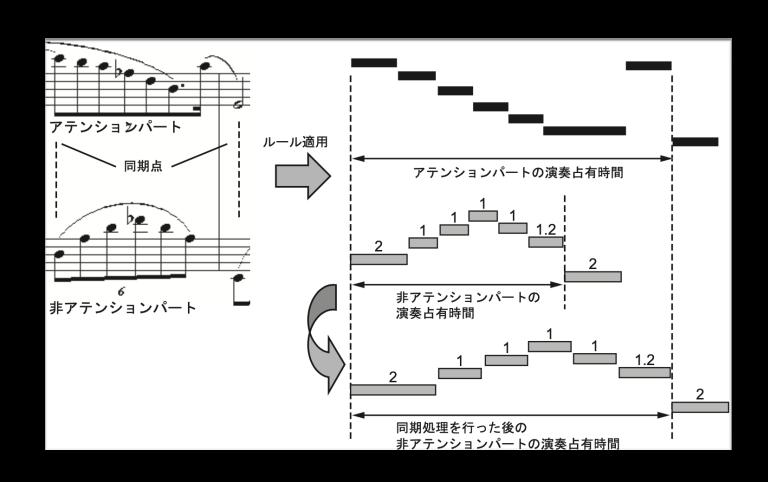
- ・楽譜上のある時刻において 最も鳴って欲しい音符列
 - 複数の声部を渡り歩く
 - 聴き手(弾き手)の個人差あり
 - 当該曲に対する思い入れ etc.
 - 有力な声部
 - いわゆる主旋律
 - ベースライン
 - 内声、オブリガード
 - 音響的に目立つ音
 - 聴取イメージありき
 - 楽譜起点ではわかりにくい

声部ごとに異なる緊張一弛緩構造

[GTTM 1983] [橋田 2005-]



声部ごとの独立表現を「橋田 2005-] 同期点で帳尻合わせ



【まとめに変えて:要議論】 楽曲演奏における声部間協調モデルの検討

[人間とコンピュータ演奏のインタラクション]

- 各声部で独立した表現をしても「破綻はしない」フレームワーク
 - 声部間で絶対的にタテに揃える(=同期させる)べき場所は減らせそう
 - 「自由」と「統制」のバランスをどうとる?
 - 同期はほんの少しで良さげ?
 - アテンションパート(主旋律とは限らない)の構造化
 - GTTM延長簡約をs声部ごとに展開
 - アテンションパートの選ばれやすさは聴取実験のしがいがある

アテンションパートのなりやすさ?

[太田+2018]



- ・ 音源を聴いて、自分がメインで 聴取した音符を楽譜にマーキング
 - 成人男女 20人
- マークされた音符群を集約→ 五線譜でヒートマップ式に可視化